



平成29年12月1日(金)

# 藤 棚

第345号

狭山ヶ丘学園 学校通信

<http://www.sayamagaoka-h.ed.jp/>  
<http://www.sayamagaoka-h.ed.jp/js/>

## 貴乃花さんの思い出

校長 小川義男

私は、元入間市長の木下先生を深く尊敬していた。今もそうである。木下先生は、高等学校を卒業したのみで、当時の役場に入り、苦勞の末に、市長職まで上りつめられた。その学識は、尋常のものではなかった。しかし今日は、それがメインテーマではないので、彼の学識、人柄について述べるのは、別の機会に譲りたい。

木下先生を深く尊敬していた私は、彼の後半の市長選挙には、必ずと言って良いくらい、応援演説の勞を取らせて頂いた。

貴乃花さんとお会いし、親しく話をさせて頂いたのは、その応援演説の折である。貴乃花さんは、既にその時、相撲協会の「年寄」になっておられた。人も知る大横綱である。入間市で地方相撲の大会があり、市長であられた木下さんが、色々お世話をなさったのではないかと思う。詳しくは知らない。木下さんは、人に施した恩恵のことなど、口になさる方ではない。しかし、人も知る大横綱、年寄が駆けつける以上、貴乃花さんが、その恩義に報いようとなさったのは、間違いないだろう。

街頭演説で、貴乃花さんは確か、私の右側に立っておられた。有名人に接して、当然私も緊張するはずなのだが、それが全くそうでない。貴乃花さんの、気取らぬ、ごく自然なご様子に、この方が日本一の大横綱、年寄ではなく、ごく普通の若者、好青年という印象を、私に与えてしまったからである。

何か話しかけると、貴乃花さんは、「目上の人に」話しかけられたように、緊張して受け答えなさった。私は恐縮したが、彼の姿勢は、その後も変わらない。

私が驚いたのは、彼が(こんな書き方は失礼かな)極度に緊張して、私の問いかけに答えられたことである。

彼は、ポケットから、可なり皺だらけになった紙を一枚取り出した。どうやら、その日の演説の原稿であるらしいのである。彼は、紙を見たり空を見上げたりして、口の中でぶつぶつ言っている。どうも彼は、原稿の暗誦を確かめているらしいのである。

驚いた。若いとは言え大横綱、部屋を取り仕切る親方である。少しくらい間違ったって良いで

はないか。しかし、彼は、口の中でぶつぶつと暗誦を繰り返す。そして、間違えたりしないかと、どうも不安らしいのである。

紙は、すっかり、しわくちゃになってしまった。でも「大横綱」は、不安そうに、顔を空に向けて暗誦を繰り返す。私は、彼が日本一の横綱であった事を忘れて、すっかり好感を抱いてしまった。「何という人だろう」「何という方だろう」「この方には、けれんもはったりもないのだな」、そう思うと、本当に好きになった。

一陣の薫風と、木下氏の勝利への確実性を残して彼は去ったが、私は今も、貴乃花さんの、あの爽やかなお姿を忘れることができない。

相撲界で、天下の横綱が、暴力事件を引き起こしたことが問題になっている。しかもそれに、三人の横綱が関わり合っている。私に、それに言及する力も識見もない。しかし、一部に、貴乃花さんを激しく非難する動きがあると、私は、「被害者である側を責めて、事なきを得ようとする動き」が、角界全体に存在しているように思えてならない。

確かに今の相撲は、怪我が多すぎる。ボクシングのタイトルマッチを毎日やっているような気配も感ずる。「星の貸し借り」があったと言われる昔が望ましいとは思わぬが、現状のあり方も、ひと思案する必要があるのではないか。

しかし、傷害事件が起き、同国出身の横綱が三人も同席しているの犯行となると、相撲協会も、一旦は刑事事件として、傷害事件として司直の裁量を待ち、その上で角界の、このような傷害事件の発生を防ぐため、力を尽くすことが、国技の発展のため、望ましいのではないか。

貴乃花さんの、あの正直、実直さでは、権謀渦巻く角界を渡りきって行けるだろうか、そんな不安を私は抱く。

八百長が復活するとは思わないが、勝負に威迫が存在するとすれば、国技大相撲は滅びる。

貴乃花さんの信念、実直さが葬られるならば、相撲道そのものが衰退を招く。貴乃花さんを、少しだけ知る者として、世界一の相撲の健全な明日を期待する。

今朝のニュースによると、横綱白鵬が、優勝表彰の席上、異例にも発言し「日馬富士と貴ノ岩を、再び土俵に上げてあげたい」と述べたそうである。貴ノ岩は被害者である。あえて白鵬が発言しなくとも、被害事故の傷が治れば、土俵に上られるのは当然である。傷害現場に同席し、あるいはなにがしかの関与も否定できない白鵬が、発言するまでもない。

彼の発言は、日馬富士の土俵復帰を望むと言う一点に尽きる。

角界の利益も関わっているのかも知れないが、傷害既遂の犯人が、横綱として復帰できるようであれば、角界の明朗さは実現から遠くなる。監督の責めを負う文部科学省の責任は大きい。

貴乃花さんが、理事会の質問に協力しないという事情にも、このような背景が関わっているのかも知れない。

いずれにせよ、三横綱が同席している場所で、傷害犯罪が行われたのである。犯人が、再び横綱として振る舞えるようであれば、国技の明日に光はない。

刑事事件だ。傷害罪に対する司法機関の裁決が明確になる中では、貴乃花さんも、相撲協会理事会の調査に応じる事であろう。

高校生、中学生諸君は、どのようにお考えであろうか。

相撲協会理事会の、清潔、明朗な決断に期待する。 (11月25日執筆)